

借用証文を読む 解答

史料1 寛政四年（一七九二）十一月二十八日 借用申金子證文之事
(平川家文書 No.一五一五)

借用申金子證（証）文之事

一金壺兩者^印 通用金也

右者從御地頭様、來ル丑ノ田方先納金被

仰付候得共、出來兼申候ニ付、貴殿江御無心申

金子壺兩只今慥^印二請取、御屋敷江御用立

申所実正也、然上者返済之所ハ來ル丑田方御
年貢米ニ而元利引渡シ可申候、為後日借用

證（証）文入置申候、仍而如件

寛政四子年 内宿村

十二月廿八日 名主

武兵衛^印

同村

吉兵衛殿

【読み下し】

借用申す金子證（証）文の事

一金壱両者^印 通用金也

右は御地頭様より、来る丑の田方先納金

仰せ付けられ候得共、出来兼ね申し候に付き、貴殿へ御無心申す
金子壱両只今慥かに請け取り、御屋敷へ御用立
申す所実正也、然る上は返済の所は来る丑田方御
年貢米にて元利引き渡し申すべく候、後日の為借用
證（証）文入れ置き申し候、仍て件の如し

寛政四子年 内宿村

十二月廿八日 名主

武兵衛^印

同村

吉兵衛殿

史料2 寛政八年（一七九六）十二月 借用申金子証文之事

（平川家文書 No.一五一四）

借用申金子證（証）文之事

一金子五兩者
右者從御地頭所、來ル已田方石代金

被仰付候得共、我等方三而出来兼申候間、貴殿

江御無心申金子五兩借用仕、石代金御上納^印

申所実正也、然上者返済之義ハ、來ル十一月中

田方御年貢米ニ而元利引取可被下候、万一御
地頭所ニ而相滯義も御座候ハゝ、村方惣百姓

一同割合ヲ以取立、少茂無遲々御勘定可

申候、為後日名主・組頭・百姓代借用證（証）文入

置申候、仍而如件

寛政八辰年

内宿村

十二月日

借用入

名主 武兵衛^印

同

組頭 善太夫^印

同

百姓代 幸八^印

同村

吉兵衛殿

【読み下し】

借用申す金子證（証）文の事

一金子五両者 文字金也

右は御地頭所より、来る已田方石代金

仰せ付けられ候得共、我等方にて出来兼ね申し候間、貴殿
へ御無心申す金子五両借用仕り、石代金御上納

申す所実正也、然る上は返済の義は、来る十一月中

田方御年貢米にて元利引き取り下さるべく候、万一御
地頭所にて相滯り義も御座候わば、村方惣百姓

一同割合を以て取り立て、少しも遅々無く御勘定

申すべく候、後日の為名主・組頭・百姓代借用證（証）文入れ
置き申し候、仍て件の如し

寛政八辰年 内宿村

十二月日 借用人

名主 武兵衛^(印)

同

組頭 善太夫^(印)

同

百姓代 幸八^(印)

同村

吉兵衛殿